

# 丹波市市民意向調査報告書 (抜粋)

## 調査結果の概要と分析

# 1. 調査の概要

---

## 1-1. 調査の目的

丹波市民の生活環境及び施策に関する意見等を把握し、「まちづくりビジョン」の策定及び今後の都市づくりを検討する上での基礎資料とします。

## 1-2. 調査概要

### (1)調査方法

#### ①調査対象

2018年10月末現在の住民基本台帳より、無作為に抽出した16歳から80歳までの市民3,000人を対象として実施

#### ②調査期間

2018年11月26日(月)～12月10日(月)

#### ③調査方法

郵送による配布及び回収(無記名)

### (2)調査項目

- ・回答者属性
- ・日常の生活行動について
- ・丹波市の住みやすさについて
- ・20年後の将来に向けた丹波市のまちづくりについて
- ・公共交通について
- ・将来の丹波市のまちの姿と市民の暮らしの姿について
- ・自由意見

### (3)配布回収状況

配布数	回収		集計・整理対象数
	回収数	回収率	
3,000	1,135	37.8%	1,135

※2018年12月27日までに返信された分を含めています。

(参考) 地域別の配布・回収状況

	配布数	回収数	回収率
柏原地域	476	181	38.0%
氷上地域	823	295	35.8%
青垣地域	275	111	40.4%
春日地域	484	194	40.1%
山南地域	521	185	35.5%
市島地域	421	162	38.5%

※居住地域が無回答のものが 7 通あるため、上記の地域別の回収数を足したものは、回収数合計 1,135 と一致しません。

(4) 標本誤差

- ・調査の結果、1,135 件を回収し、標本誤差を計算すると下記の通り±2.8%となります。
- ・一般的に標本誤差は±5%（世論調査並み）であり、この数値より精度が高いものとなっています。

標本誤差

$$b = \pm 2 \times \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

$b$  = 標本誤差

$N$  = 母集団数（16歳から80歳までの総人口）、49,184人  
（平成30年10月末住民基本台帳人口）

$n$  = サンプル数（比率算出の基数）、1,135件

$P$  = 回答比率、37.8%

⇒以上の結果より、標本誤差は±2.8%

(5) 留意点

- ・集計では、小数点第2位を四捨五入しており、数値の合計が100.0%にならない場合があります。
- ・「3.調査結果」におけるグラフ中のNとは、回答者総数（または該当設問での該当者数）を表しています。
- ・「3.調査結果」におけるグラフ中のSAとは、シングルアンサー（単一回答）を表し、MAとは、マルチアンサー（複数回答）を表しています。
- ・クロス集計表は、表の左側項目の属性別に、1位を黒の網かけ、2位をグレーの網かけとしています。ただし、無回答は順位から除きます。

## 2. 調査結果の概要と分析

### (1) 日常の生活行動について

#### ○市民の生活行動実態（最も利用する施設の場所とその場所へ行く頻度）について

- ・利用頻度が高いものでは、「①食料品・日用品の店舗（スーパー、コンビニ、商店）」と「⑦幼稚園・保育所・認定こども園」は、居住地域内で利用する傾向にあります。
- ・利用頻度が中程度のものでは、「②衣類・家電品等の店舗（大型店や専門店）」は、氷上地域で利用する傾向にあります。「⑤医院・診療所」は、居住地域内で利用する傾向があります。「⑫文化ホール（観劇、音楽鑑賞など）」は、居住地域によって利用する場所が市外も含めて異なる状況です。
- ・利用頻度が低いものでは、施設の立地状況を反映して「④総合病院」は柏原地域、「⑪美術館・博物館」は、氷上地域での利用が多い傾向にあります。「⑥介護・福祉施設」、「⑨市役所（支所）」、「⑩図書館」、「⑭スポーツ施設（屋内、屋外）」は、居住地域内で利用する傾向にあります。「③飲食店（レストラン、カフェ）」、「⑬公園（屋外でのレクリエーション）」は、居住地域によって利用する場所が市外も含めて異なる状況です。その中でも、山南地域、市島地域の居住者は、市外で利用する傾向にあります。「⑮行楽地（季節のレジャー、観光など）」は、市外で利用する傾向にあります。

図表 最も利用する施設の場所とその場所へ行く頻度の対応関係

利用頻度	施設	最も利用する施設の場所		
		居住地域内	特定の地域（市内）	市外
利用頻度が高い（「ほぼ毎日」～「週に1日程度」が最も高い）	①食料品・日用品の店舗（スーパー、コンビニ、商店）	柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者		
	⑦幼稚園・保育所・認定こども園	柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者		
利用頻度が中程度（「月に1～2日程度」が最も高い）	②衣類・家電品等の店舗（大型店や専門店）	氷上地域の居住者	柏原・青垣・春日・山南地域の居住者（氷上地域で利用）	市島地域の居住者
	⑤医院・診療所	柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者		
利用頻度が低い（「数ヶ月に1日程度」～「年に数日程度」が最も高い）	⑫文化ホール（観劇、音楽鑑賞など）	柏原・春日・市島地域の居住者		氷上・青垣・山南地域の居住者
	③飲食店（レストラン、カフェ）	柏原・氷上地域の居住者	青垣・春日地域の居住者（氷上地域で利用）	山南・市島地域の居住者
	④総合病院	柏原地域の居住者	氷上・青垣・春日地域の居住者（柏原地域で利用）	山南・市島地域の居住者
	⑥介護・福祉施設	柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者		
	⑨市役所（支所）	柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者		
	⑩図書館	柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者		
	⑪美術館・博物館	氷上地域の居住者	柏原・青垣・春日・山南・市島地域の居住者（氷上地域で利用）	
	⑬公園（屋外でのレクリエーション）	柏原・青垣・春日・市島地域の居住者	氷上地域の居住者（柏原地域で利用）	山南地域の居住者
	⑭スポーツ施設（屋内、屋外）	柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者		
	⑮行楽地（季節のレジャー、観光など）			柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者

※「⑧市役所（本庁舎、分庁舎）」は、氷上地域、春日地域に立地しているが、支所と混同し、利用する施設の場所として他の地域も回答がされており、実態と異なるため、分析からは除くこととします。

※表の上部項目の『最も利用する施設の場所』は、設問と回答者の居住地とのクロス集計の結果、以下の考え方で分類しています。

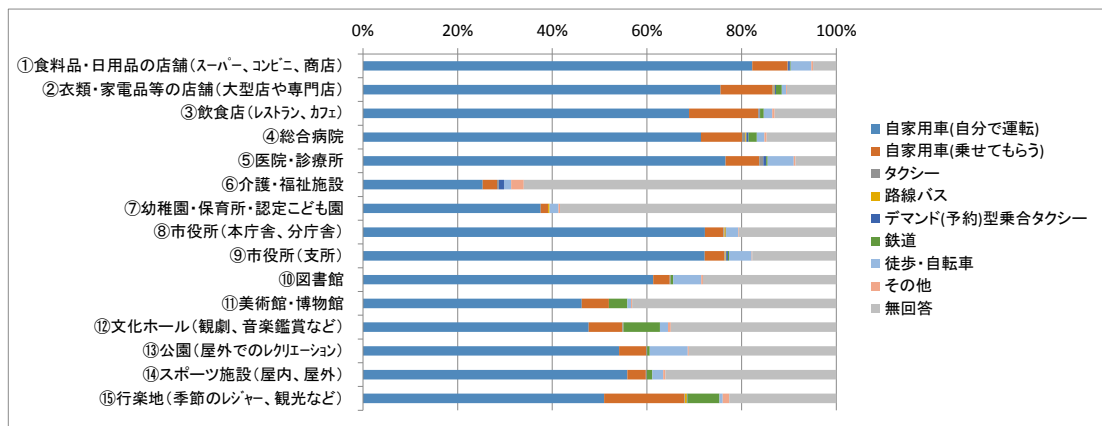
- ・最も利用する施設の場所が、居住地と一致する傾向がある場合は、「居住地域内」として分類
- ・最も利用する施設の場所が、特定の地域（市内）に集中する傾向がある場合は、「特定の地域（市内）」として分類
- ・最も利用する施設の場所が、市外の傾向がある場合は、「市外」として分類

※表の左側項目の『利用頻度』は、利用頻度の選択肢の、「ほぼ毎日」・「週に2～4日程度」・「週に1日程度」の合計、「月に1～2日程度」、「数ヶ月に1日程度」・「年に数日程度」の合計のうち、値が最も高いものに分類しています。

## 〇市民の生活行動実態（最もよく使う交通手段と移動の利便性）について

- ・施設への移動手段として最もよく使う交通手段は、全ての施設において、「自家用車（自分で運転）」の割合が圧倒的に高くなっています。

図表 利用する施設別の最もよく使う交通手段



- ・その中で、自家用車以外の交通手段について、タクシー、路線バス、デマンド（予約）型乗合タクシーは、春日地域の小学校区において利用割合が高くなっています。鉄道は、山南地域、市島地域の小学校区において利用割合が高くなっています。徒歩・自転車利用は、崇広小学校区や進修小学校区、吉見小学校区において利用割合が高くなっています。

図表 自家用車以外の交通手段別の最もよく使う交通手段としての平均割合が高い小学校区

		最もよく使う交通手段の平均割合が高い小学校区		
		1位	2位	3位
自家用車以外の交通手段	タクシー	進修小学校区（春日地域） （1.5%）	崇広小学校区（柏原地域） （1.0%）	船城小学校区（春日地域） （1.0%）
	路線バス	船城小学校区（春日地域） （0.5%）	中央小学校区（氷上地域） （0.5%）	旧芦田小学校区（青垣地域） （0.4%）
	デマンド（予約）型乗合タクシー	船城小学校区（春日地域） （2.6%）	東小学校区（氷上地域） （1.7%）	旧神楽小学校区（青垣地域） （1.0%）
	鉄道	久下小学校区（山南地域） （5.9%）	上久下小学校区（山南地域） （3.5%）	前山小学校区（市島地域） （2.6%）
	徒歩・自転車	崇広小学校区（柏原地域） （7.1%）	進修小学校区（春日地域） （6.9%）	吉見小学校区（市島地域） （5.9%）
	その他	西小学校区（氷上地域） （3.6%）	船城小学校区（春日地域） （2.2%）	黒井小学校区（春日地域） （1.3%）

※施設ごとに最もよく使う交通手段として選択された割合について、その平均値を算出し、上位3位までを整理しています。

- 全ての施設において移動の利便性は、「行きやすい」や「まあ行きやすい」が高くなっており、自家用車利用の場合は、特に不便を感じないと評価されています。
- 自家用車利用以外の人の回答は、自家用車と比較して利便性の評価は低く、特に公共交通手段の評価が低くなっています。

図表 交通手段別のその場所への移動の利便性の評価の平均値

		行きやすい	まあ行きやすい	どちらとも言えない	あまり行きやすすくない	行きにくい
交通手段	自家用車（自分で運転）	50.1%	28.5%	6.4%	2.2%	1.6%
	自家用車（乗せてもらう）	32.4%	31.2%	10.5%	6.8%	3.3%
	タクシー	8.5%	53.7%	0.7%	1.1%	1.1%
	路線バス	5.6%	12.2%	5.6%	2.2%	8.9%
	デマンド（予約）型乗合タクシー	13.2%	33.0%	2.2%	1.9%	6.9%
	鉄道	26.7%	13.0%	8.4%	16.6%	13.4%
	徒歩・自転車	39.3%	31.4%	7.1%	0.6%	3.9%
	その他	33.4%	6.7%	10.8%	5.6%	26.5%

※施設ごとに利便性の評価として選択された割合について、その平均値を算出し、整理しています。

（分析）

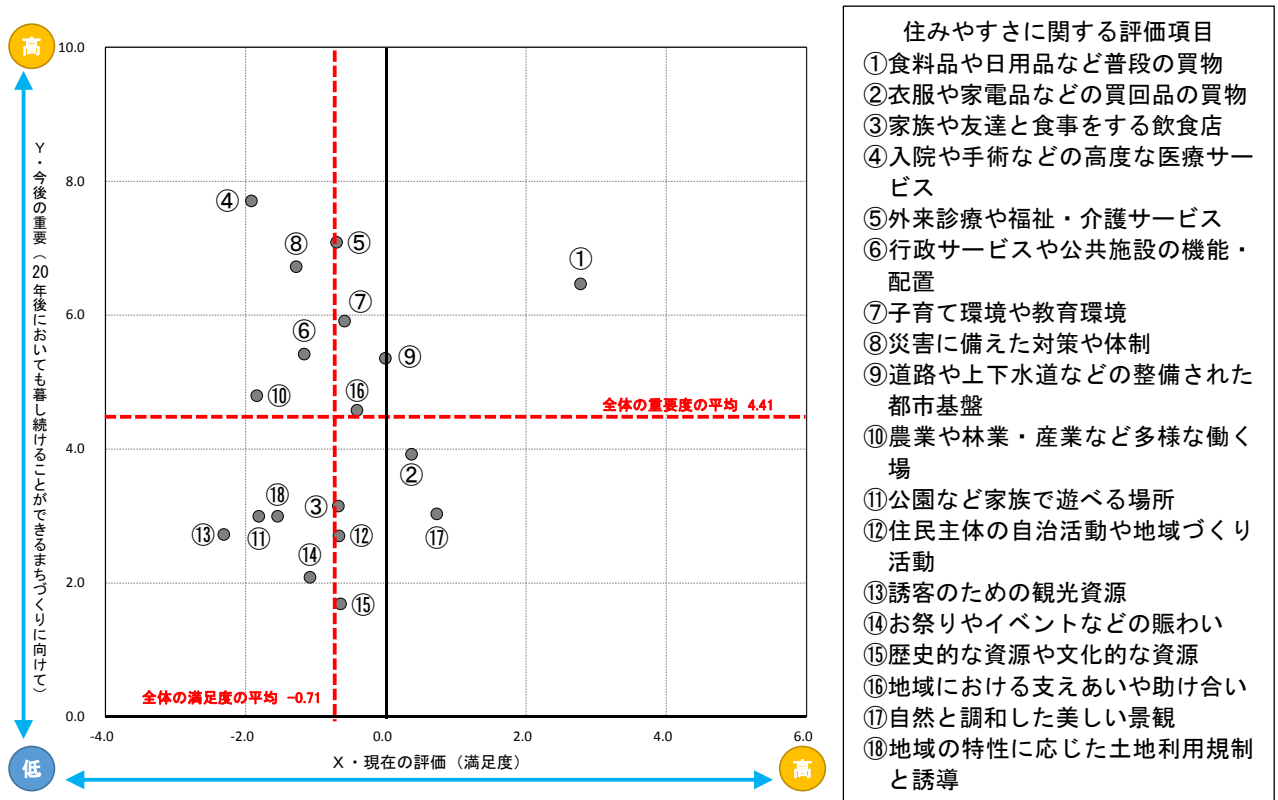
- 身近な居住地域内で利用され、かつ頻繁に利用される実態のある、食料品・日用品の店舗、幼稚園・保育所・認定こども園は、ニーズを踏まえた上で、身近な地域内に立地させることが必要と考えられます。
- 自家用車利用の場合、各施設への移動の利便性は問題ないと感じられていますが、今後の高齢化に備え、公共交通は強化することが必要と考えられます。

## (2) 丹波市の住みやすさについて

### ○丹波市の住みやすさに関する評価について

- ・満足度がプラスであるものは、「①食料品や日用品など普段の買物」、「②衣服や家電品などの買回品の買物」、「⑱自然と調和した美しい景観」となっており、普段の買物や自然環境に関しては、満足度が高い状況です。
- ・満足度が低くて重要度が高いものは、「④入院や手術などの高度な医療サービス」、「⑧災害に備えた対策や体制」となっています。
- ・20歳代・30歳代では、「⑦子育て環境や教育環境」の満足度が低く、重要度が高いという特徴があります。

図表 住みやすさに関する評価の満足度－重要度の散布図

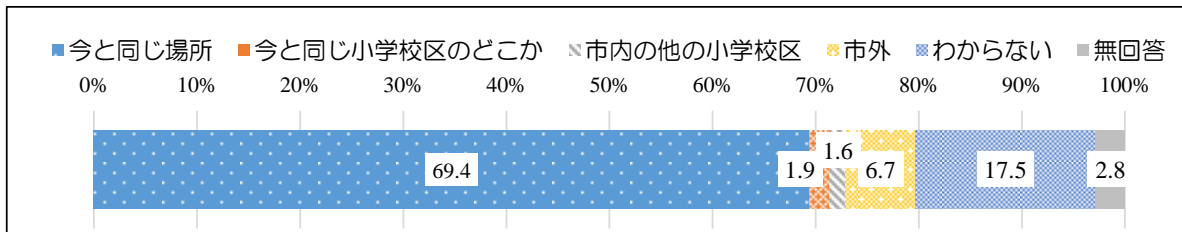


※満足度、重要度の点数は、満足度が満足10点、やや満足5点、ふつう0点、やや不満-5点、不満-10点、重要度が重要10点、やや重要5点、ふつう0点、あまり重要でない-5点、重要でない-10点としてそれぞれの項目の回答の平均点を算出したものです。

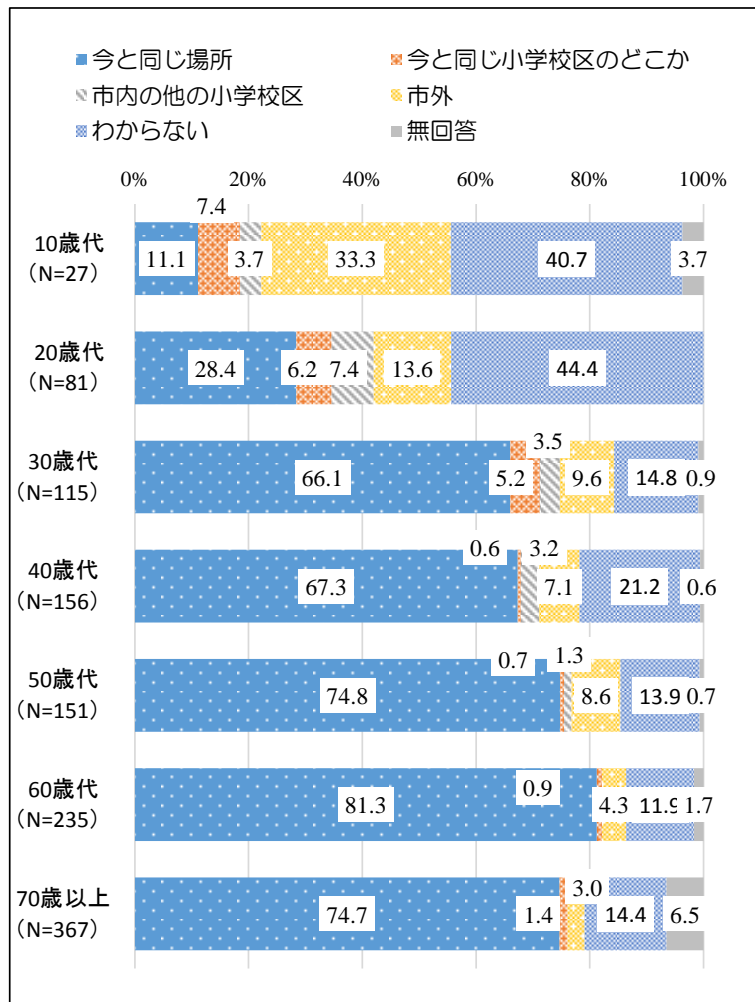
○居住継続意向とその理由について

- 20 年後の将来、どこに住んでいるかについては、「今と同じ場所」(69.4%) が最も高く、次に市外(6.7%)となっています。年齢別に見ると、10 歳代や 20 歳代では居住場所の継続意向が低くなっています。

図表 今後の居住場所の継続意向



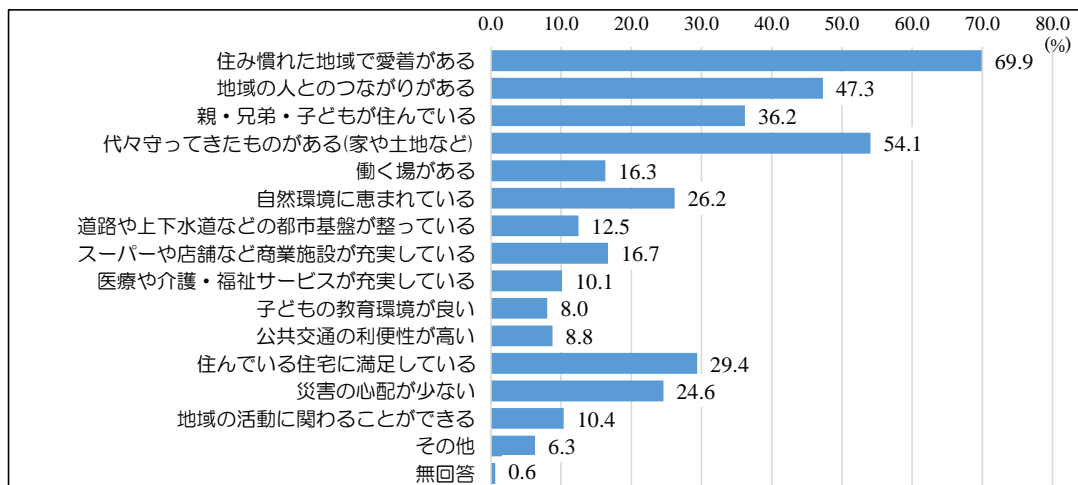
図表 年齢別の今後の居住場所の継続意向





- ・「今と同じ場所」もしくは「今と同じ小学校区のどこか」を選んだ方の理由は、「住み慣れた地域で愛着がある」が最も高く、次いで「代々守ってきたものがある（家や土地など）」や「地域の人とのつながりがある」が高く、地域との結びつきを維持することが主な要因としてあげられています。
- ・年齢別に見ても概ね同様の傾向にありますが、年代が高いほど、より地域との結びつきを維持する要因が大きい傾向にあります。

図表 今と同じ場所もしくは今と同じ小学校区に20年後も住み続けていると思う理由  
(複数回答)



図表 年齢別の今と同じ場所もしくは今と同じ小学校区に20年後も住み続けていると思う理由のクロス集計 (複数回答)

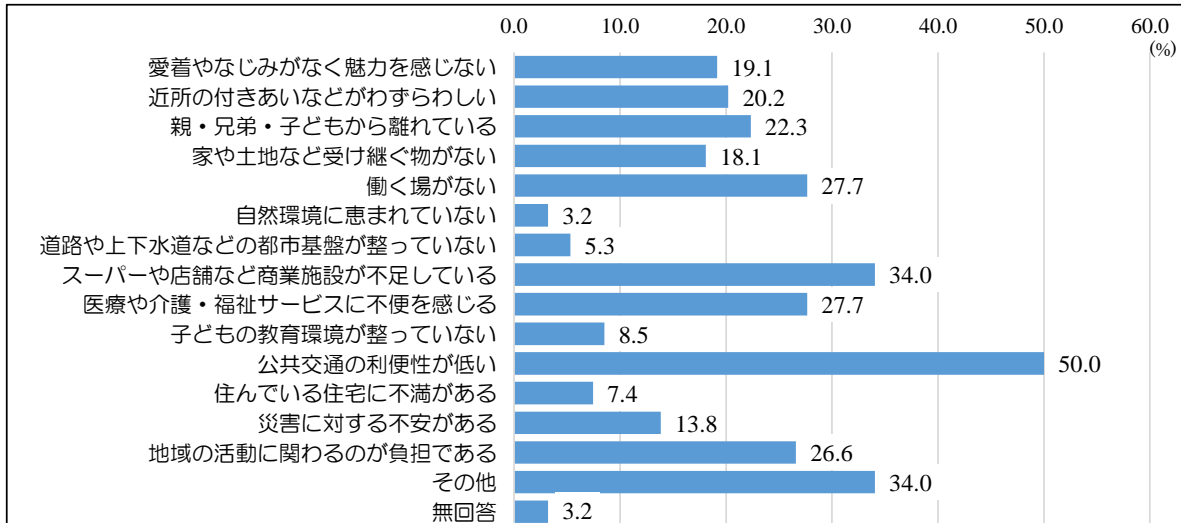
単位：%

	住み慣れた地域で愛着がある	地域の人とのつながりがある	親・兄弟・子どもが住んでいる	代々守ってきたものがある(家や土地など)	働く場がある	自然環境に恵まれている	道路や上下水道などの都市基盤が整っている	スーパーや店舗など商業施設が充実している	医療や介護・福祉サービスが充実している	子どもの教育環境が良い	公共交通の利便性が高い	住んでいる住宅に満足している	災害の心配が少ない	地域の活動に関わることができる	その他	無回答
10歳代 (N=5)	60.0	20.0	60.0	20.0	20.0	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0	0.0	0.0
20歳代 (N=28)	67.9	32.1	53.6	28.6	28.6	25.0	3.6	10.7	7.1	17.9	7.1	25.0	25.0	10.7	7.1	0.0
30歳代 (N=82)	43.9	24.4	56.1	37.8	28.0	25.6	6.1	12.2	6.1	11.0	6.1	26.8	13.4	6.1	9.8	0.0
40歳代 (N=106)	56.6	34.9	50.9	43.4	21.7	19.8	6.6	17.9	3.8	10.4	7.5	27.4	20.8	6.6	7.5	0.0
50歳代 (N=114)	65.8	40.4	27.2	53.5	21.9	17.5	3.5	9.6	5.3	3.5	7.9	27.2	20.2	7.9	6.1	0.0
60歳代 (N=193)	74.1	52.3	31.6	66.3	10.9	24.9	10.4	16.6	9.8	5.2	10.4	23.8	23.8	10.9	5.7	1.6
70歳以上 (N=279)	81.4	59.5	29.0	58.1	10.8	33.7	22.6	21.1	16.5	9.3	9.7	35.8	31.5	14.0	5.4	0.7

※グラフ中のNとは、当該設問に答えた年齢別の総数を表しています。

- ・「市内の他の小学校区」か「市外」を選んだ方の理由は、「公共交通の利便性が低い」、「スーパーや店舗など商業施設が不足している」、「医療や介護・福祉サービスに不便を感じる」、「働く場がない」が高く、生活利便性の不満をあげる人が多い状況です。
- ・年齢別にみると、若い年代の「市内の他の小学校区」か「市外」を選んだ方の理由は、「働く場がない」という理由が高くなっています。

図表 市内の他の小学校区か市外に20年後には移り住んでいると思う理由（複数回答）



図表 年齢別の市内の他の小学校区か市外に20年後には移り住んでいると思う理由のクロス集計（複数回答）

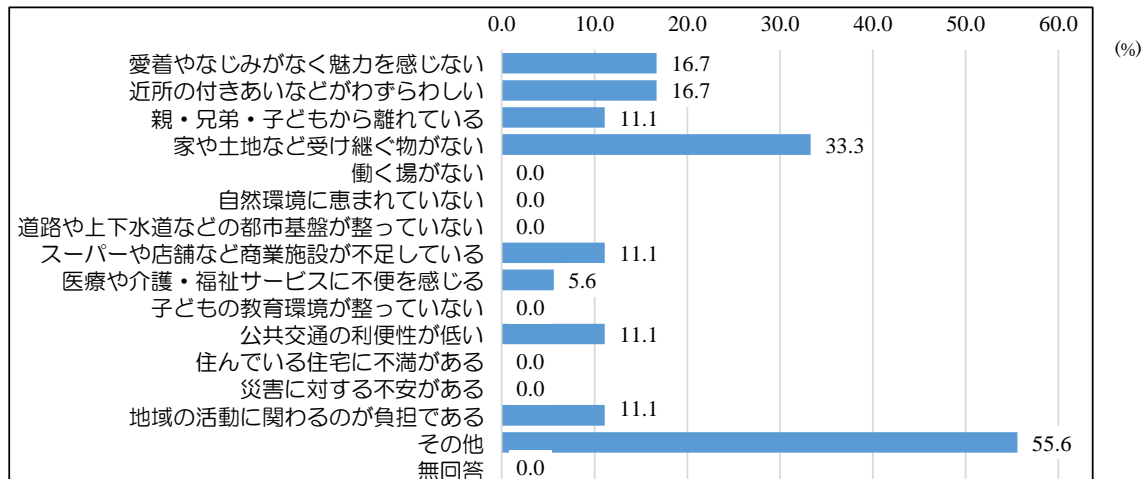
単位：%

	愛着やなじみがなく魅力を感じない	近所の付き合いなどがわすらしい	親・兄弟・子どもから離れている	家や土地など受け継ぐ物がない	働く場がない	自然環境に恵まれていない	道路や上下水道などの都市基盤が整っていない	スーパーや店舗など商業施設が不足している	医療や介護・福祉サービスに不便を感じる	子どもの教育環境が整っていない	公共交通の利便性が低い	住んでいる住宅に不満がある	災害に対する不安がある	地域の活動に関わるのが負担である	その他	無回答
10歳代 (N=10)	20.0	30.0	0.0	10.0	50.0	0.0	0.0	40.0	10.0	0.0	50.0	0.0	20.0	10.0	50.0	0.0
20歳代 (N=17)	5.9	5.9	5.9	17.6	35.3	0.0	0.0	41.2	11.8	11.8	47.1	0.0	5.9	11.8	35.3	5.9
30歳代 (N=15)	26.7	20.0	33.3	20.0	40.0	6.7	13.3	26.7	33.3	6.7	53.3	26.7	20.0	33.3	46.7	0.0
40歳代 (N=16)	31.3	25.0	18.8	18.8	12.5	0.0	12.5	37.5	31.3	18.8	50.0	12.5	18.8	43.8	37.5	0.0
50歳代 (N=15)	20.0	26.7	20.0	26.7	13.3	0.0	6.7	26.7	40.0	0.0	66.7	6.7	0.0	26.7	20.0	0.0
60歳代 (N=10)	30.0	30.0	40.0	20.0	30.0	10.0	0.0	50.0	50.0	10.0	50.0	0.0	30.0	60.0	20.0	0.0
70歳以上 (N=11)	0.0	9.1	45.5	9.1	18.2	9.1	0.0	18.2	18.2	9.1	27.3	0.0	9.1	0.0	27.3	18.2

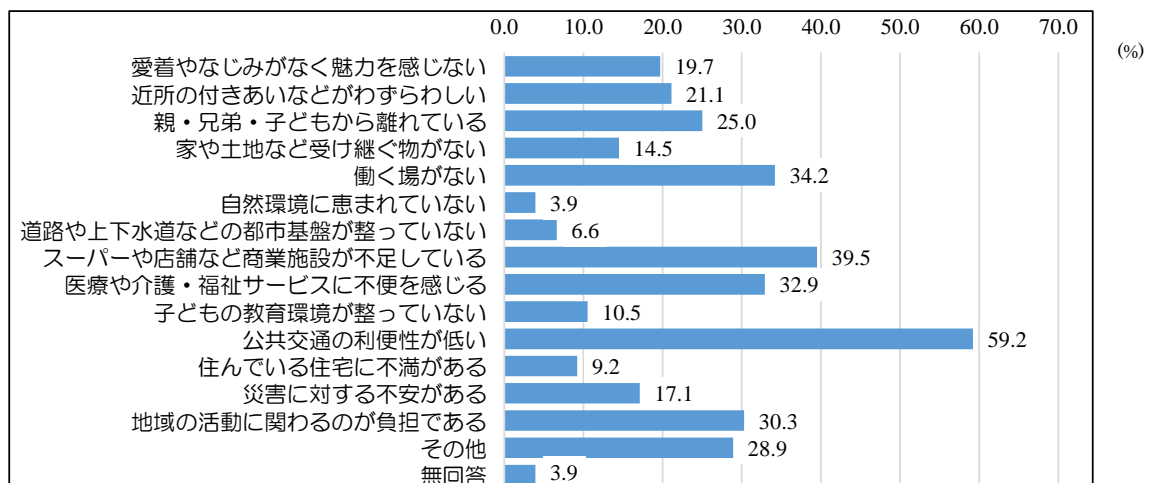
※グラフ中のNとは、当該設問に答えた年齢別の総数を表しています。

- ・「移り住んでいると思う」理由を「市内の他の小学校区」と「市外」で分けてみると、「市内の他の小学校区」を選んだ方の理由は、「家や土地など受け継ぐ物はない」が高くなっています。「市外」を選んだ方の理由は、「公共交通の利便性が低い」、「スーパーや店舗など商業施設が不足している」、「働く場がない」、「医療や介護・福祉サービスに不便を感じる」が高くなっています。

図表 市内の他の小学校区に住みたい理由（複数回答）



図表 市外に住みたい理由（複数回答）



(分析)

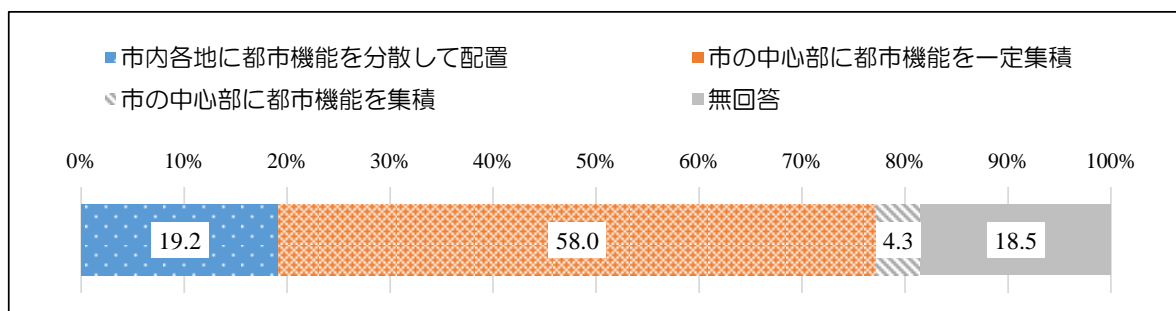
- ・医療環境や防災環境、行政サービスと機能配置、働く場に関しては、特に優先的に改善していくことが必要と考えられます。
- ・定住意向が強く、土地や人との結びつきが強い特徴があるため、住み慣れた地域で住み続けることができるようにすることが必要と考えられます。
- ・転出要因は利便性に因るところが大きく、交通手段や日常生活における必要機能の一定の確保が必要と考えられます。特に若い世代の定着、呼び込みのためには、子育て環境や働く場の充実が重要です。

### (3) 20年後の丹波市のまちづくりについて

#### ○丹波市の20年後のまちの姿（都市の構造）について

- 20年後のまちの姿（都市の構造）は、「市の中心部に都市機能を一定集約」させる都市構造の支持が最も高くなっています（58.0%）。次に、「市内各地に都市機能を分散して配置」させる都市構造が支持され（19.2%）、「市の中心部に都市機能を集積」させる都市構造に対する支持は低くなっています（4.3%）。

図表 丹波市の20年後のまちの姿（都市の構造）の考え方



#### ○20年後の将来を想定した必要と考えられる施設の場所について

- 「①食料品・日用品の店舗（スーパー、コンビニ、商店）」は、全ての地域において、地区（校区）への立地が必要と考えられています。「⑤医院・診療所」、「⑩小学校」においても、青垣地域を除き、地区（校区）への立地が必要と考えられています。
- 「⑨市役所（支所）」、「⑩図書館」、「⑬公園（屋外でのレクリエーション）」、「⑰中学校」は、全ての地域において、地域（旧町域）への立地が必要と考えられています。
- 「②衣類・家電品等の店舗（大型店や専門店）」、「④総合病院」、「⑧市役所（本庁舎、分庁舎）」、「⑪美術館・博物館」、「⑫文化ホール（観劇、音楽鑑賞など）」、「⑮行楽地（季節のレジャー、観光など）」は、全ての地域において、市の中心部にあればよいと考えられています。
- 氷上地域では、「⑦認定子ども園」、「⑥介護・福祉施設」も地区（校区）に必要と考えられており、身近な地区（校区）に必要と考えられる機能が他地域と比較して多くなっています。柏原地域、山南地域では、「⑦認定子ども園」が地区（校区）への立地が必要と考えられています。
- 「③飲食店（レストラン、カフェ）」は、柏原地域、氷上地域、春日地域、市島地域で地域（旧町域）への立地が必要と考えられています。「⑭スポーツ施設（屋内、屋外）」は、青垣地域、春日地域、山南地域、市島地域で地域（旧町域）への立地が必要と考えられています。

図表 居住地域別の必要と考えられる施設の場所

施設	必要と考えられる施設の場所		
	地区（校区）	地域（旧町域）	市の中心部
①食料品・日用品の店舗（スーパー、コンビニ、商店）	柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者		
②衣類・家電品等の店舗（大型店や専門店）			柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者
③飲食店（レストラン、カフェ）		柏原・氷上・春日・市島地域の居住者	青垣・山南地域の居住者
④総合病院			柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者
⑤医院・診療所	柏原・氷上・春日・山南・市島地域の居住者	青垣地域の居住者	
⑥介護・福祉施設	氷上地域の居住者	柏原・青垣・春日・山南・市島地域の居住者	
⑦認定こども園	柏原・氷上・山南地域の居住者	青垣・春日・市島地域の居住者	
⑧市役所（本庁舎、分庁舎）			柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者
⑨市役所（支所）		柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者	
⑩図書館		柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者	柏原地域の居住者
⑪美術館・博物館			柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者
⑫文化ホール（観劇、音楽鑑賞など）			柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者
⑬公園（屋外でのレクリエーション）	青垣地域の居住者	柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者	
⑭スポーツ施設（屋内、屋外）		青垣・春日・山南・市島地域の居住者	柏原・氷上地域の居住者
⑮行楽地（季節のレジャー、観光など）			柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者
⑯小学校	柏原・氷上・春日・山南・市島地域の居住者	青垣地域の居住者	
⑰中学校		柏原・氷上・青垣・春日・山南・市島地域の居住者	

※設問と回答者の居住地とのクロス集計の結果、施設ごとに必要と考えられる場所の割合が最も高いものに分類しています（⑩図書館は、柏原地域において地域（旧町域）と市の中心部が同率、⑬公園（屋外でのレクリエーション）は、青垣地域において地区（校区）と地域（旧町域）が同率です。）。

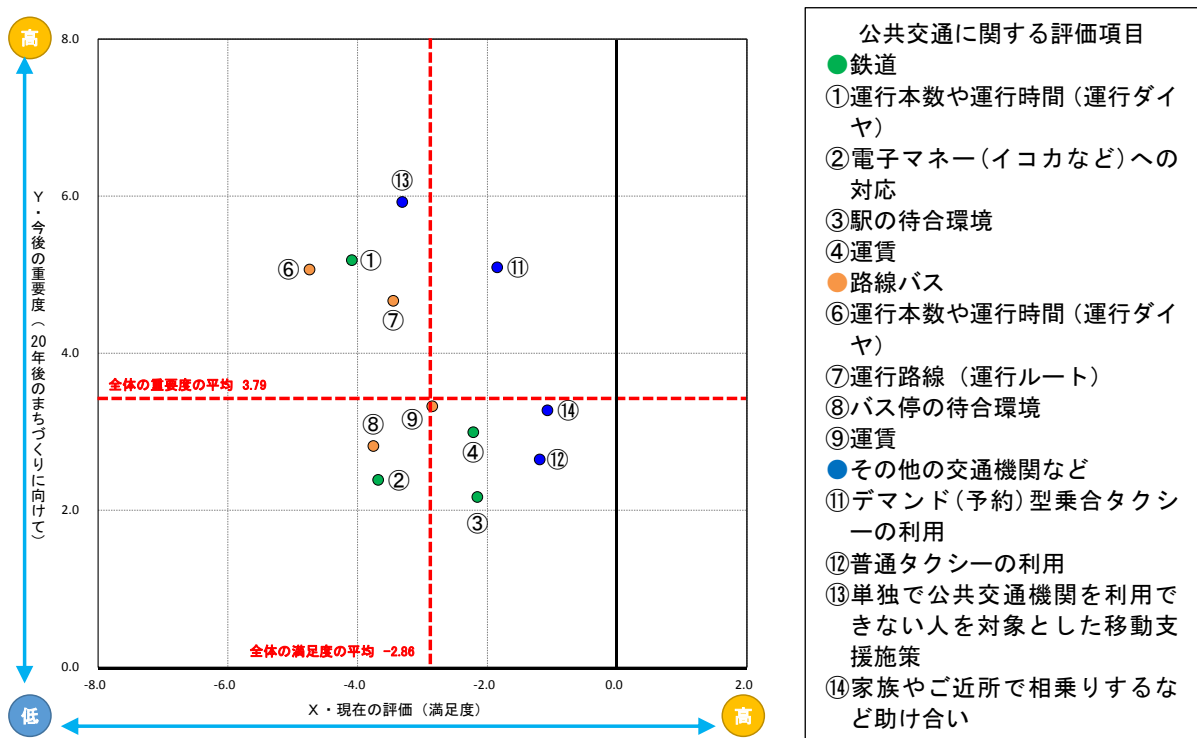
（分析）

- ・市の中心部に都市機能を一定集約させる都市構造に対する支持が高く、一極集中の都市構造に対する支持は低いため、一定中心部に集約しながらも、住み慣れた地域で住み続けることができるよう機能配置することが望まれています。
- ・食料品・日用品の店舗や医院・診療所といった日常生活に必要な機能は、身近な地区（校区）への立地が必要と考えられます。
- ・総合病院や市役所（本庁舎・分庁舎）、美術館・博物館、文化ホールなど、全市的な利用がされると機能は中心部に配置することが必要と考えられます。
- ・介護・福祉施設や認定こども園など、特定の人が利用する施設や、飲食店やスポーツ施設などの身近な娯乐的施設は、地域のニーズに即した配置が必要と考えられます。

#### (4) 公共交通に関する評価について

- 満足度は全ての項目でマイナスとなっており、公共交通に対する満足度は全体的に低いと言えますが、特に、「⑥路線バスの運行本数や運行時間（運行ダイヤ）」、「①鉄道の運行本数や運行時間（運行ダイヤ）」が低い状況にあります。
- 重要度が特に高い項目は、「⑬単独で公共交通機関を利用できない人を対象とした移動支援施策」、「①鉄道の運行本数や運行時間（運行ダイヤ）」、「⑪デマンド(予約)型乗合タクシーの利用」、「⑥路線バスの運行本数や運行時間（運行ダイヤ）」となっており、鉄道、路線バス以外のデマンド（予約）型乗合タクシーや福祉移動支援施策など、公共交通体系全体の充実が必要と考えられています。
- 路線バスについては、全体的に満足度の評価が低いことから、利用環境の改善が必要と考えられます。

図表 公共交通に関する評価の満足度－重要度の散布図



※満足度、重要度の点数は、満足度が満足 10 点、やや満足 5 点、ふつう 0 点、やや不満 -5 点、不満 -10 点、重要度が重要 10 点、やや重要 5 点、ふつう 0 点、あまり重要でない -5 点、重要でない -10 点としてそれぞれの項目の回答の平均点を算出したものです。

#### (分析)

- 単独で交通機関を利用できない人を対象とした移動支援施策の強化が必要と考えられます。
- 満足度及び重要度が低い項目については、将来を見据えた利用環境の改善を図ることで、利用者数の増につなげていくことが必要です。